

愛媛日仏文化交流会

平成26年2月15日(土)、「四国八十八箇所巡りがもたらす心の変化 ～フランス人お遍路エミリ・ベルトの体験～」を開催しました。東日本大震災直後の2011年3月、周囲の反対を押し切り、2ヶ月間にわたる遍路経験をしたエミリ・ベルトさん。震災のため外国人がほとんどいない中で、温かい接待を受けたことは貴重な体験となったそうです。今回は、そのエミリ・ベルトさんを講師にお迎えし、2年前の貴重な体験と、その心の変化、そして人生への影響についてお話していただきました。

新聞にも紹介されました!

平成26年2月16日(日)
愛媛新聞より

遍路映画 世界に発信

仏映像作家ベルトさん 松山で意気込み



映画撮影に向けた2巡目の歩き遍路計画を披露し「早く出発したくて仕方がない」と笑顔のベルトさん

「歩き遍路は日本の心を学ぶ最良の方法」。2011年4～5月、四国八十八箇所霊場を徒歩で巡礼したフランス人映像作家エミリ・ベルトさん(35)はパリ在住。15日、松山市三番町6丁目のユネスコで講演した。お接待の伝統と遍路の絆に感銘を受け、遍路のドキュメンタリー映画を製作中で「現代日本の新しい顔を映したい」と意気込んだ。

ドキュメンタリー製作中

愛媛日仏文化交流会が主。08年から約2年間、松山市でフランス語講師を務めたベルトさんは、計画していた遍路出発前に東日本大震災が起き、続けるか迷ったが「平和の使者になろう」と決意し、遍路を巡った。フランスでは仕事以外でそろいの服を着る習慣がなく、白装束姿は「最初はちょっと恥ずかしかった」。しかし、ミカンや飲み物の差し入れ、笑顔のあいさつなど道中でお接待の心に触れるうち「外国人ではなく、遍路として受け入れられた」喜びを実感した。遍路体験を語り合うこと、初対面でも心の距離が縮まることに気が付いた。「白衣

を脱いでも、私はお遍路さんファミリーの1員」。道中で出会った愛知県の女性たちとパリで再会したこともあって、遍路を通じて待たれた神を誇らしげに紹介した。

四国霊場開創1200年の今年、パリの会社と協力し「88」と題したドキュメンタリー映画を製作中。20日は、1番札所霊山寺(徳島県鳴門市)からビデオカメラとともに2巡目に繰り出す予定で、お接待の様子や遍路のインタビューを収録、今秋完成を目指す。

ベルトさんは「フランスで日本の話題といえば、侍か漫画か福島の原発事故。遍路体験を共有し、現代の日本を世界の人たちに知ってほしい」と願う。

交流会は製作の応援として「寄付を募っている。問い合わせは幸(ゆき)喜代子さん(電話0800-030200)0707。(穂田まゆか)



映像作家

エミリ・ベルトさん

たくさんの方が
熱心に聞き入って
いました。



